

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報

No. 87号

JOMA設立50周年記念

思考する宣教 愛し共に生きる宣教



勝田聖書教会牧師
アンテオケ宣教会理事
JOMA会長

吉永 輝次

皆さまのご祈援と主にある交わりを心より感謝致します。JOMA役員会は2021年度より新たにOMF日本ホームサイドセンター総主事の佐味湖幸師を迎え新体制となりました。昨年度、会長を務めて下さった塚田献師(南米宣教会)のご労に感謝致します。

吉永輝次(アンテオケ宣教会)が会長となり、副会長に佐味湖幸師、会計には藤村良彦師(アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)、書記には関なおみ師(チャーチ・オブ・ゴッド教団)が務めて下さっています。また、事務局主事の大間哲兄の為の篤い祈りを献げて下さり、心より感謝致します。今年度に入り、徐々に体調が改善されているとの事。主の憐れみです。また、新たに「LMI世界宣教会」と「SIM日本委員会」が加盟され19団体となりました。

さて、昨今の宣教の世界は、非常に複雑です。LGBTQ、SDGs、気候変動、エネルギー、飢餓、難民、イスラム過激派、共産圏、核と兵器、経済格差、人権、働き方、多元化と世俗化・・・、そして、新型コロナ。宣教に携わる者にとって、どれ一つ落とせない無視出来ない事ばかりです。

ローザンヌで47年前に宣言された“宣教は①伝道②社会的責任を果たすことである”を土台に、現状は更に複雑に絡み合っています。祈り思考することなくして、福音を語ることも実践することも出来ません。思考する宣教が求められているのではないのでしょうか。

パウロは、サンヒドリンで大祭司・議員達を前に「健全な良心にしたがって神の前に生きてきた」(使徒23:1)と証言を始めます。片や、偶像に満ちたアテネの街においては、『私たちは神の中に生き、動き、存在している』(使徒17:28)と全ての人が神の手の中に置かれている事を、イエスの十字架と復活と共に大胆に語りました。単なる猪突猛進で出来る宣教ではありませんでした。

一方、聖書を学べば学ぶ程、神の派遣、神の創造、神の導き、神の愛と義と聖さ、神の摂理、イエスのことばとわざによる宣教、十字架と復活、聖霊の注ぎ、満たし、導き・・・、これらの三位一体の神の働きの全てに共通しているのは、「そこには必ず人が居る」「神の働きの現場は人が生活している社会である」が明らかです。神は人を造り、愛し、愛し通されており、そこに神の宣教があります。

ならば、我らの宣教も「人を愛し、人と共に生きる」宣教が求められているのではないのでしょうか(マルコ12:30-33,ルカ6:35,ローマ12:15)。

1971年7月2日、神の不思議な導きでこの「JOMA (Japan Overseas Missions Association/海外宣教連絡協力会)」が組織され、宣教協力が始められました。設立50周年を迎える本年、私たちは「過去を知り、過去に学び、現在に生き、そして、未来に向」おうとしています。JOMAもJOMAに属する19団体、そして、日本にある他の宣教団体と諸教会は、今、神からのこの大いなるチャレンジを受けています。この時代の只中で、どの様に神の宣教に関わるのか、と。

JOMAの50年の歴史は、そのまま、それは属されている会員宣教団・教派教団の各宣教部の歴史そのものです。本年2021年度より数年に渡り「JOMA50周年記念事業」を展開する予定です。どうぞ祈りを以てお支え下さり、ご参加頂けましたら幸いです。

主に在りて

LMI 世界宣教会の 団体紹介と活動状況

LMI世界宣教会(通称 LMJ)
田辺 証夫

この度、2021年度JOMA総会において、加盟をご承認いただきましたLMI世界宣教会(通称LMJ)と申します。リーベンゼラ・ミッションは1899年11月13日、ドイツ国ハンブルグにおいて産声を上げた宣教団体です。その働きは中国奥地伝道のハドソン・テラー宣教師の要請に応えたハインリヒ・ケルパー牧師によって始まりました。日本での宣教開始は1927年、第二次世界大戦を挟み、1951年に再来日したモジマン宣教師らにより宣教が開始されました。現在、22カ国に約230人の宣教師がリーベンゼラ・ミッション・インターナショナル(LMI)の働きを通して派遣されています。

LMIの日本ボードとしてのLMJの働きは1992年に始められましたが、設立以前にも日本からバングラデシュ、そしてアメリカへと女性宣教師を主は遣わしてくださいました。現在はニューヨーク周辺に住む邦人への宣教師夫妻、バングラデシュでの医療宣教師が私たちの働きをとおして送られています。モンゴルにも4名の宣教師が派遣された時期があります。



7月11日に行われた一日だけの子どもデイキャンプの様子(クリスチャン子弟9名、ノンクリスチャン家庭から8名の子ども、高校生ボランティア5名の手伝い)

● 北米邦人宣教

これまで駐在員の多かったニュージャージー州グリニッジを中心とした働きが続けられて来ましたが、2020年より、ニューヨーク州にあるリッジウェイ教会(アライアンス)の働きに加えていただき、ニューヨークめぐみ教会として邦人宣教の働きが続けられています。私たちが願う通りには宣教師の交代ができずにおりましたが、主の時だったので、2020年12月をもって約14年に渡る働きを続けてこられた立石宣教師夫妻から笹川宣教師夫妻に働きが引き継がれ、ミニストリーが継続されています。↗



理事会のZOOM開催の様子

NY邦人宣教で大切にしている働きは「たんぼぼミニストリー」です。ここ数年駐在員のアメリカ滞在期間が更に短くなっていますが、アメリカで救われた人々、または主を求め始めた人たちが、日本のみならず、全世界にたんぼぼの種のように飛んで行き、そこでまた福音の花を咲かせるのです。日本からアメリカへ、アメリカから全世界への宣教が展開されています。



腹痛で入院している6歳の患者さんを回診中

● バングラデシュ医療宣教

バングラデシュは、LMJが携わった最初の国外宣教と言えます。公に福音宣教ができない地ではありますが、キリストの愛を持って医療を必要としている人々に奉仕し、祈ることによって働きが続けられています。現在は近藤患医療宣教師が第5期目の働きに就いています。発展途上国であり、最貧国の一つと数えられるバングラデシュです。最初に宣教師が派遣された当時よりはかなりの改善が見られるものの、医療の分野における遅れは明らかです。そのような中、与えられている医療器具、また技術を用いて、必要に応じての医療が求められます。このように宗教的社会的に、また技術的な分野でも制限がある中ですが、だからこそ人間にはできないことを全能の主のみこころなることに期待し、待ち望むことが許されています。

SIM 日本委員会 の団体紹介

SIM日本委員会 JOMA担当
追浜聖書教会牧師 石川 新

SIMは、世界70か国以上で約4,000人(宣教師と働き人)が主にあって仕えている国際的な宣教団体です。



● 歴史:

1893年にSudan Interior Mission(スーダン奥地伝道団)設立。宣教に燃えるアメリカとカナダの3人の若者たち(下写真 左からウオルター・ゴーンズ、トーマセント、ローランド・ピングハム)をナイジェリアのラゴスに派遣。しかし3人は、マラリヤにかかり内2人が召天、ローランド・ピングハムは、回復後再派遣も病に倒れ母国に帰国。その後、彼の尽力により3つ目のチームが派遣され1902年にはじめてスーダン奥地に拠点が築かれました。詳細は、ローランド・ピングハム(ジャンネット&ジェフ・ベンジ著 日本委員会訳 右上写真)に記されています。1982年AEM(アンデス福音宣教)、1989年ICF(国際クリスチャンフェローシップ)と合併し、1998年AEF(アフリカ福音交友会)、2016年MECO(中近東クリスチャン・アウトリーチ)が加入し、Serving in Missionと改名され現在に至っています。



ナイジェリアに派遣された3人の宣教師

● 宣教の目的と理念:

神の福音を聞かずに生きて死ぬ者が誰一人あってはならないと確信し、イエス・キリストが最も知られていない共同体の中で、キリストの弟子づくりのために神は私たちを召してくださったと信じる。

従って、神の偉大な愛に強く迫られ、聖霊にカづけられて



『ローランド・ピングハム』ベンジ著 表紙より

- ① 数々の障害を乗り越えて、キリストなしに生きて死んでいく人々の間で、福音を生き抜きつつキリストを宣べ伝える。
- ② 多様な働きを通して人々をキリストの弟子として聖書的健全な教会を建て上げていく。
- ③ 地域的、地球大的に諸文化を超えて、神の宣教を実現するために諸教会と協力の働きを進める。
- ④ どこから遣わされ、どこに召されようと、神の召命を受け入れている人々を異文化の宣教の働に参与するよう促進動員する。

● SIM宣教師派遣事務所:

世界12地域に宣教師派遣事務所を置き、教会開拓、医療、神学教育、スポーツ伝道、メディア伝道、子ども青少年伝道、社会援助など多様な宣教師を全世界に派遣しています。日本は東アジア(シンガポールに事務所)に所属し、インドネシア シンガポール 台湾 東北インド 西マレーシア 東マレーシア&ブルネイ フィリピン 香港 ブータンで構成されています。毎年、各国の代表と委員、国際本部の方々、宣教師等が集い、総会が行われています。

● SIM日本委員会:

2000年、清水担・いずみ元宣教師のタンザニア派遣にあたり日本委員会が発足しました。既にSIMU.S.A.から南アジアに1組、吉岡陽子元宣教師がニジェール派遣されていました。現在、アフリカに1家族、南アジアに2家族と2名の女性宣教師を派遣しています。

2021年6月、小川国光初代委員長から清水担委員長に引き継がれました。委員会は委員長と7名の委員(4名の牧師、2名の信徒)で構成され、1名の会計事務スタッフ(信徒)がいます。

毎年、ゲストや宣教師をお招きし、世界宣教リトリートを開催しています。皆さんもぜひSIMの働きに参加して、共に主のわざをみていきましょう。

- ◆ OMF 日本ホームサイドセンター
 - * 坂西信悟宣教師は7、8月の新人宣教師オリエンテーションコースをオンライン受講しました。任地(タイ)への出発は、まだ暫く先になる予定です。忍耐をもって出発の時まで備えることができますように。
 - * 新たな宣教師候補者が起こされるように。
 - * 10月4、5日に予定しているOMF日本委員会会議の準備のために。来年の予算ほか、いくつか大切な議案があります。主の導きがありますように。

- ◆ 南米宣教会
 - * 宗教法人・南米宣教会アマゾナスが運営するようになった朝顔幼稚園の運営と経済的必要性のために。
 - * ジョセフィーナ学校(通称日伯学校)の教育を通しての宣教とスタッフの祝福のために。
 - * 宗教法人・南米宣教会アマゾナス及び学校運営に携わっている三浦洋平兄、三浦真生兄の兄弟とその家族の健康が守られ、生活が支えられるように。
 - * 新しい宣教師が起こされるように。

- ◆ アンテオケ宣教会
 - * 日本に一時帰国を願っている宣教師たちの道が開かれ、任地へ再赴任を願っている宣教師のビザが与えられますように。
 - * 新しく教育宣教師としてタンザニアのインターナショナルスクールに2年間派遣される山舗岳兄の為に。
 - * YouTubeチャンネル「じゃむちゃん」とオンラインで世界を結ぶ宣教祈禱会「結祈」が用いられますように。
 - * 11月から、お茶の水クリスチャンセンターに事務所を移転します。業務に支障がないように、スムーズな引っ越しとなりますように。

- ◆ 在欧日本人宣教会
 - * ミュンヘンの安藤廣之師が年内に本帰国の予定です。全てのプロセスが守られますように。
 - * 欧州と日本の教会の間で、祈りの課題が互いに分かち合われ、祈りの繋がりができていきますように。

- ◆ SIM日本委員会
 - * SIM日本は今年4月から元タンザニア宣教師清水担師が委員長として立てられ、いずみ夫人と共に新しい歩みがスタートしました。重責を担う新委員長の上に祝福があるように。
 - * アフリカ・アジアの3か国に5組の宣教師が派遣されています。帰国も再入国も困難な状況下であり、各宣教師が「その日」を待ち望んでいます。ふさわしく出発できますように。
 - * 宣教師たちの各派遣教会の荷が、多くの支援者たちに支えられています。御霊による一致が与えられ、宣教の豊かな実には、共に預かることができるように。

- ◆ LMI世界宣教会
 - * 駐在員の異動が多く、教会に定着しては送り出すことの多いNYでの笹川師ご夫妻の働きのため。ゴスペルや英会話伝道等が用いられ、新たに救われる方々が起こされるよう。(北米邦人宣教)
 - * 外国人なのでワクチン接種を受けられないまま医療に従事している近藤恵医療宣教師がコロナ感染から守られるように。第5期以降の働きについて導きを与えられるように。(バングラデシュ医療宣教)

- ◆ チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部
 - * メキシコではコロナと共に治安の悪化が顕著です。最近も教会・学校敷地に不法侵入がありました。阿部和子宣教師、山田若葉協力宣教師が守られるように。
 - * 今年の秋学期から学校を開校できるか微妙なところですが。経営面でも支えられるように。
 - * 今年からグアダハラ教会は日本のCOGから独立し、新しい歩みに入ります。祝福をお祈りください。
 - * 阿部宣教師の一時帰国はキャンセルになりました。その働きが守られますように。

※祈禱課題欄は、毎回同じ団体の順番に掲載することになってしまうことを避けるために、今回より順不同にて原稿到着順に掲載させていただきました。

- ◆ 東洋ローア・キリスト伝道教会 海外宣教委員会
 - * 2020年度から2年間海外宣教委員会の委員長 江城保雄師の働きのために。
 - * 海外の友好教会である台湾長老基督教会の博愛手語教会、中華聾人基督教会、香港聾人基督教会の研修会が再開ができるように。現在はコロナ禍により、休会になっています。
 - * 旭川の介護施設(とわの鐘の家)に入所をしている安森ハル姉(元フィリピン宣教奉仕者)、山内佐代子姉(元フィリピン宣教奉仕者)の健康のために。

- ◆ 東京フリーメソジスト教団 宣教委員会
 - * Zoomを使用しているオンライン宣教祈禱会を教団単位で月に1回程度行っています。特に、海外宣教に重荷を持てる場となっていくように。
 - * ブラジルで宣教の働きをしている矢花祈・来子宣教師ご一家のために。来年中には、報告のための一時帰国ができるように。
 - * 宣教委員会の働きの一つ一つを通して、祈り手がますます増し加えられるように。各教会に、宣教師とのつながりが与えられるように。

- ◆ イマヌエル総合伝道団 世界宣教局
 - * 台湾の平瀬義樹・光世宣教師が日本に戻り、久保光彦・せきな宣教師が新しく宣教師として赴任。4人のお子様も守られ、伝道ができますように。
 - * ザンビアの富澤香宣教師、根廻恵子宣教師は引退されました。新たな医療宣教師が起こされますように。

- ◆ OM日本
 - * 矢部晶宏、幸恵一家がコロナ禍の中、無事にオーストリアに派遣されました。現地での教会開拓、難民支援伝道が祝されますように。特に幸恵姉の健康を覚えてお祈りください。
 - * 昨年ミャンマーより一時帰国した井上希宣教師は、まだ帰任の見通しがたっていません。最善の時に道が開かれますよう、悪化するミャンマーの現状の為に。
 - * ログスホープ号に乗船している短期宣教師達の為に。近々帰国を予定している方々の今後の歩みの為に。
 - * 新たに、3ヶ月に一度のオンラインOM宣教祈禱会がスタートしました。共に海外宣教に情熱を注ぎ、祈り、励まし合う場として用いられますように。

- ◆ 基督兄弟団 海外宣教委員会
 - * 4月29日教団内の教職・信徒を対象に、永井敏夫師をお招きして、「在日外国人宣教セミナー」をオンライン開催することができました。10月にはセミナーを受けて実践されたことなどを分かち合う集会を計画しています。この集会が、外国での生活で不安や寂しさを感じている在日外国人に教会の隣人として目を向け、受け入れ、寄り添う教会となる機会となりますようにお祈りください。

協力会員(個人・教会) 募集中!!

月千円でJOMAの活動をお支え下さい。

◆ 詳細はJOMAホームページにて ◆

※ JOMAオフィスまでメールでご連絡も感謝です。

e-Mail: office@joma.jp

未加盟の宣教団体もご紹介下さい!

「JOMA通信」のバックナンバーを探しています!

以下の番号の「JOMA通信」がお手元にありませんか?

もし有りましたら、原本でも写しでも結構ですので、JOMAオフィスまで郵送頂けないでしょうか。(メールでご連絡頂くだけでも感謝です)。

1~3号、6~11号、14~20号、25~27号、
30号、32号、35~37号、69号 の各号



Zoom in Mission

50周年企画 第1弾



ズーム イン ミッション

～JOMA 50周年 世界宣教フォーラム～

50年前、世界に出て行った。そのころの宣教はどんなだったのだろうか？

当JOMAは1972年7月2日に設立されました。

1970年前後、高度経済成長の最中にあるものの、様々な問題が指摘され混乱し経済の陰りが見え始めた頃、まだまだ貧しかった福音派の若い教会は果敢に伝道・宣教に取組み続けた。1970年代、異文化圏で外国人に伝道している宣教師の多くは福音派所属である、という。そして、それは日本国内伝道にも多大な刺激を与えた……。それは何だったのだろう……。？!

50年前を知る方々の証言を聴き、「知り・学び・今に生き、将来に向う」時を持ちます。「証言傾聴」「パネルディスカッション」「グループ討議」を2回のセッションで。是非、ご出席下さい。

<セッション 1>

10月15日(金)19:00～21:00 (15分前open)
司会進行:佐味 湖幸 師
(OMF日本ホームサイドセンター総主事)
テーマ:「派遣される側から」

<セッション 2>

16日(土)10:00～12:00 (15分前open)
司会進行:大田 裕作 師
(アンテオケ宣教会総主事)
テーマ:「派遣する側から」

お申し込みは右QRコード→
又はJOMAホームページからお願いします



JOMA活動報告

JOMA総会 & JOMA宣教セミナーレポート

2021年5月11日(火)に、JOMA総会と、それに先立つ午前にはJOMA宣教セミナーをメンバー・ケアと共催でオンライン開催しました。

宣教セミナー「独身宣教師のケアについて」 11:00～12:30

講師：佐味湖幸師 (OMF日本ホームサイド・センター 総主事)

参加者：約70名 (JOMA会員団体関係者だけではなく、様々な教団・団体より参加いただきました)

内容：今回のセミナーは、独身(特に女性)宣教師にフォーカスし、その課題や挑戦、そして必要なケアについて、体験談も交えて語っていただきました。

<参加者の声>

- ◆「独身者」という言葉のイメージを広げていただきました。性別、年代、宣教地、現地でのチーム構成等個別に課題が異なり、必要なケアが異なることを学びました。独身者固有の課題についても意識化することができました。
- ◆シングルの宣教師にとって、責任をともに負ってくれる人がいないプレッシャー、というのがあることに気づかされました。宣教師一人に責任を負わせるのではなく、ともに担う姿勢も必要であることを思いました。

JOMA総会 13:30～15:30

同日午後には、JOMAの定期総会が開かれました。出席は、19団体(委任状による出席3団体を含む)。LMI世界宣教会とSIM日本委員会の加盟が正式に承認され、2020年度の事業報告・会計報告がなされた後、2021年度の役員体制が報告されました。また、2021年度の事業計画案と予算案が討議されました。特に、JOMA50周年記念事業をこれから数年にわたって開催していくことが決定されました。(巻頭言も併せてご参照下さい)



◆事務局より◆

本年4月、事務局主事大間がMND(ALS等の運動ニューロン疾患)の疑いで入院した際、多くのお祈りと励ましを頂戴しました。その後、病状は回復して現在は安定しており、若干の症状を残すものの経過観察で定期的な通院は不要と言っていただけになりました。心から感謝申し上げます。(大間)

